

---

# 幼馴染と恋心

小井草ひより

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幼馴染と恋心

### 【Nコード】

N8534B

### 【作者名】

小井草ひより

### 【あらすじ】

頭よし、顔よし、運動も出来る。学校で1、2位を争うほどのイケ男を幼馴染に持つ貴緒は、今まで好き人に告白しても、亮と付き合っていると勘違いされ、付き合ったことが一度も無かった…。そんな貴緒が高校一年の春にスキな人が出来るが…。幼馴染なんて、一生幼馴染。だけど一歩踏み出せば……………

おさななじみ

「ねえ、貴緒」

学校に行く途中

……

「ん？どしたの、砂由ちゃん？」

その質問はされた

……

「貴緒と神崎君が付き合ってるって本当なの？」

うっ、またか。この質問これで何回目だー？

「あたしと、亮ちゃんは別にそーゆー関係じゃないよ」

あたし、向本 貴緒「こごもと たかお」と神崎 亮「かんざきりょう」は5歳の時からの幼馴染です。

11年前あたしが、引っ越してきた家の向かい側が亮ちゃんのお家で、

同じ年の子供がいるということ、あたしのママと亮ちゃんのおママが仲良くなったという。

本当に極々普通の幼馴染なのです。

「じゃあ、どうゆう関係なのさ？」

「幼馴染」

「おさななじみー！？本当にそれだけの関係なのー？」

「そうだよ。あたしと亮ちゃんはこの先何があってもズツズツ  
幼馴染なの」

「本当に？」

「しつこいなー。本当に本当なんだってば」

そう、あたしと亮ちゃんはどんなことがあっても、これ以上にもな  
らないし、これ以下にもならない。

この時まではずっとそう思っていた ……

その間、砂由ちゃんが小さな声で

「なんだか面白い事になりそう」と言ったことあたしはまったく  
気付かずにいた ……

## おさななじみ（後書き）

前回の作品とあまり進歩は見当たりませんね…。すみません。

“幼馴染”の恋愛小説は王道だけど、小井草は書いてみたかったですよ。はい。

あと、貴緒は男みたいな名前だけど女の子です。よろしくお願いします。

## 合コンの取り付け

高校1年生                    春                    花咲く16歳                    好きな人と過ごした  
いお年頃                    ……

そう、今年の春こそ絶対彼氏をつくるっ！！

お昼休み、いつもと同じように教室で砂由ちゃんと一緒にごはんを食べている。

「ねー、砂由ちゃん？」

お弁当の玉子焼きを口に入れようとする砂由ちゃんに声をかけた。

「なによ、そんな可愛い顔しても何もあげないわよ」

そう言って、自分のお弁当箱を手で隠した。

…あたしは可愛いくない、当たり前だけど自分が可愛いとも思わない…。

なのに砂由ちゃんはいつもあたしのことを可愛いと言う、それが何故なのか分らない。

「別に何も欲しくないよ…。 …そんなことより、あたし合コンがしたいのっ！」

砂由ちゃんは結構な美人さんで、中学のときは男に困ることは無かったのだそうだ「まあ、今でも困ってはいないだろうっ…」

だから砂由ちゃんに頼めばイイ男がいる合コンをセッティングしてくれるだろうと思いい頼んだのだ。

「はあ！？貴緒本気でそんなこと言ってるの？」

「ほ、本気だよおー！？」

「そんなことしたら、私が神崎君に怒られるわ…」

何故そこで亮ちゃんが出てくるのだ？

「そんなことないよー？亮ちゃんこの前“お前いつになったら男出来んだよ？”って言ってたもん」

そう。あれは確か一週間前、数学Aの宿題が解らなくて訊きに言ったときのことだ。

「そ、それは……。ま、まあ貴緒がそんなにやりたいって言うなら……」

「ホントっ！？ありがと砂由ちゃんっ」

砂由ちゃんが最初に言いかけた言葉が気になったけど、  
まあ合コンをセッティングしてくれるって言うんだから気にしない  
でおこづ。

少々強引に砂由を説得させ、貴緒は初めての合コンの約束をした。

よっし！！これで彼氏づくりの第一歩が踏めたよ。

でも、これからだよ…。

あっ、でも合コンってなにをすればいいんだ……？

## 合コンの取り付け（後書き）

やっぱり小説って難しいネ

あたし小説を書くのをなめていたかも・・・

頭の中にあるストーリーを上手く言葉に出来ない・・・

よって、あたしの書いた小説は分りにくい・・・。

そして放課後…

放課後。

砂由ちゃんは、バレー部に入っていて部活中で…同じく亮ちゃんも部活中だし…

てことは必然的にあたしは今日も一人で帰るわけで。

それは一人でいるのが好きじゃないあたしにとってとても寂しいもので…。

……あつ！

一人寂しく帰ろうと教室を出てふと窓を見るといつの間にか雨がぽつぽつと降り出していた。

そう言えば朝の天気予報で午後から雨だって言ってたっけ……

あつ、てことは亮ちゃんと一緒に帰れるじゃん。

思い立ったら吉日

と言っように、あたしはこの「時世に携帯電話というものが普及している」ということも忘れ駆け出していた。

「りょーちゃんっ!」

あれ？

サッカー部の部室のドアを勢いよく開けたけれど誰もいない。

「りょうちゃん……」

たしか、天気予報の確率もほぼ100%だったし元々部活は中止だったのかもしれない……。

ん？待てよ。

あたしはいつから亮ちゃんのことまでこんなにも一喜一憂するようになったのだ……？

「おい」

「ほえ!？」

突然、頭の上から声がして間抜けな返事をしてしまった。

「何間抜けな返事してんだ、帰るぞ」

その声は ……

「亮ちゃん!？なんでいるのお!？」

帰ったと思っていた人が突然現れ、驚きすぎ変な質問をしてしまった。

「あ?ああ…」

ん?あれ?なんか今日の亮ちゃん可笑しくないか?

いつもはこっちが引くくらいはつきりと喋るから、アナウンサーと  
かに向いてるなあーと思うけど今日の亮ちゃんは、なんと言うか…  
歯切れが悪い。

何か悩み事とかでもあるのかなあ…

「ねえ、何か悩み事とかでもあるの?」

「はあ?べつに何もないけど……てか、お前話し飛びすぎ…」

ほら、まただ。

いつもなら「俺だって人間なんだから悩みぐらいある。けど、お前

なんかには死んでも相談しない」「くらい言っはすなの」……

やっぱり、今日の亮ちゃんは可笑的い……

そして放課後…（後書き）

この続きまだ書けてない…  
と言っか、考えてないのです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8534b/>

---

幼馴染と恋心

2011年1月4日02時58分発行